

ジュエリー文化史研究会からのお知らせ—387—

2019.10.21

◎特別ハンドリングゼミ報告

露木宏、宮坂敦子

飯塚暁子さん、酒井麻衣さんのご好意で開催しました特別ハンドリングゼミ大好評でした。

あらためて貴重なコレクションを見せていただいた飯塚さん、酒井さんに感謝いたします。

大崎典子さん、青木千里さんから感想や情報をいただいていますのでご紹介します。

○大崎さんから

本日はありがとうございました。

一気に大量に見せていただいたので、

夢の中にいるようでまだ頭がくらくらしています(笑)。

ちょっと置いてから資料として、伺ったことを整理しようと思います。

○青木さんから

みなさま

楽しく、勉強になる最上の時間をご一緒できて幸せでした。ありがとうございます。機会を設けてくださった、露木先生、飯塚さん、酒井さんには特に感謝申し上げます。

さて、翡翠の指輪のアームに彫られた名前の件です。(実際には右から書かれています)

油 起 子

と読めました。「ゆぎこ」と読ませるのでしょうか。真ん中の字には右肩に濁点が彫られています。

こんな名前が戸籍に登録する名前の文字とはちょっと考えにくい。

結婚あるいは婚約指輪で名前まで彫るにしては楚々とした指輪です。

これは男性が思い人に懸命に貯めたお金で心を込めて贈ったのではないのでしょうか？

それで、本名の文字の音を宛てた、あるいは二人だけがわかるニックネームの文字または音を彫ってあるのではと妄想しております。

みなさまのご意見はいかがでしょうか？

例の服部の時計短鎖の下げ飾りの銘、「元輝」についての情報です。

これを調べるのに手間取ってしまって出遅れました。でも迷った人の所には物の方が嫌がったのでしょうか。ふさわしい方のもとへお嫁入りできて何よりでした。

「金工事典 若山泡沫 著」より

元輝

秦山氏。瑛輔という。二代 元孚の長男として水戸で生まれる。家督は三男の金次郎（三代 元孚）が相続した。

幕末に江戸へ出てそのまま明治に至り、東京に在住したものと考えられる。六十三才以上の長寿であることが現存する作品から分かり、巧手である。水戸並びに江戸在住。

<号銘> 赤城軒。

この人が江戸へ出たのが18から20歳とすると、大正初年まで活躍したことになります。

短鎖は確か先生の著書によれば大正初めには登場しているのでギリギリ話は合います。

香炉の飾り部分だけ金色が違うので何か袋物の飾りから取ってきてつけたとすればこの「元輝」で良いのではないのでしょうか？

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>